

エコアクション21 環境活動レポート

対象期間 2010年12月1日～2011年3月31日



ASPEC
株式会社 アスペック

平成23年5月20日 作成

【目次】

1. 環境方針	・ ・ ・ ・	1
2. 事業概要	・ ・ ・ ・	2
3. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日	・ ・ ・ ・	3
3. 実施体制	・ ・ ・ ・	4
4. 環境目標	・ ・ ・ ・	5-6
1) 事業所環境目標		
2) 現場環境目標		
5. 環境負荷の実績	・ ・ ・ ・	7
6. 環境目標とその実績	・ ・ ・ ・	7-9
7. 環境活動計画の内容と取組結果の評価	・ ・ ・ ・	10-11
8. 次年度の取組内容	・ ・ ・ ・	12
9. 代表者による全体の評価と見直し	・ ・ ・ ・	13
10. 環境関連法規制の遵守状況	・ ・ ・ ・	14
1) 当社に適用される法規制等と現在までの遵守状況		
2) 違反、訴訟等		

環境理念

アスペックは舗装工事を主とした土木関連事業を通じ、企画提案力と顧客最優先のサービスで地域社会に貢献する建設会社として、当社が掲げる『明るい職場と家庭の繁栄を創造します』の経営理念に繋がる、地球環境の保全を企業活動の最重要使命とします。

環境方針

私たちは、これからの地球環境との調和を図れる技術の推進、環境保全が重要課題との認識に立ち、次世代を担うにふさわしい専門工事業者として、環境に配慮した職場づくりと、一人ひとりの社員が主役の環境貢献活動が不可欠であることを念頭に、常に新しい創造性に挑戦し、循環型社会の一翼を担う企業として、自主的・積極的に環境への取り組みを推進します。

行動計画

- 1 具体的に次のことに取り組みます。
 - 1) 電力・自動車及び重機械燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
 - 2) 建設資材の省資源、廃棄物の3R(減量、再使用、再利用化)の推進
 - 3) 水資源の節水
 - 4) 事務用品のグリーン購入
 - 5) コピー用紙の削減
 - 6) 環境に配慮した施工(ネプラス工法)の推進
- 2 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。

制定日 2010年10月26日

改定日 2010年11月18日

改定日 2011年4月15日

代表取締役社長 楠 茂夫

2. 事業概要

①事業者名及び代表者名

株式会社アスペック
代表取締役 楠 茂夫

②所在地

本 社 長野県長野市大橋南二丁目15番地
資材倉庫 長野県長野市真島町真島字梵天東沖1148他

③環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 楠 茂夫
担当者 総務部総務課 安原 弓路
工事部工事課 荒井 勇治
連絡先 電話:026-283-2051
FAX:026-284-8699



④事業内容

・ 建設業

建設の許可

許可番号 長野県知事 特-21 第17532号
許可年月日 平成22年2月17日 有効期限 平成27年2月16日

建設業の種類

土木工事業	とび・土工工事業
石工事業	鋼構造物工事業
舗装工事業	しゅんせつ工事業
塗装工事業	造園工事業
水道施設工事業	

・ 産業廃棄物収集運搬業

許可番号 長野県知事 2008056549
許可年月日 平成20年10月12日 有効期限 平成25年10月11日

事業の範囲 収集運搬(積替保管を除く。)する産業廃棄物
がれき類(特定有害産業廃棄物であるものを除く。)

⑤事業の規模 平成22年度(H23.3月末現在)

売上高	825百万円
従業員	27人
延べ床面積(本社)	1,139㎡
敷地面積(資材倉庫)	1,979㎡
社用車	9台
車両	ダンプ・トラック 11台
重機	32台

⑥事業年度 4月1日～3月31日

3. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

① 対象範囲(認証・登録範囲)

【対象組織】

株式会社アスペック

本社・資材倉庫(常駐者なし)、全組織・全活動・全従業員を対象

【活動範囲】

・ 建設業

土木工事業

石工事業

舗装工事業

塗装工事業

水道施設工事業

とび・土工事業

鋼構造物工事業

しゅんせつ工事業

造園工事業

・ 産業廃棄物収集運搬業

② レポートの対象期間

2010年12月～2011年3月

③ 環境活動レポートの発行日

2011年5月20日

④ 作成責任者

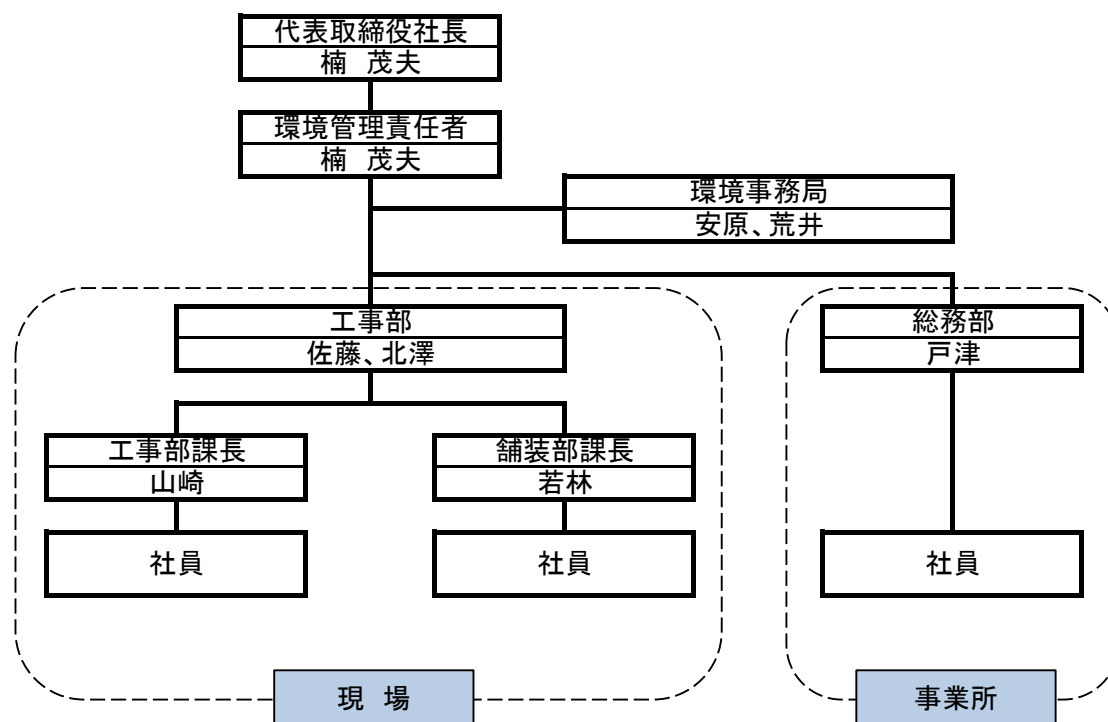
環境事務局

安原弓路

荒井勇治

3. 実施体制

EA21環境経営システムを構築・運用し、環境への取組を実施するために、実施体制、責任と権限を定め、全従業員に周知する。

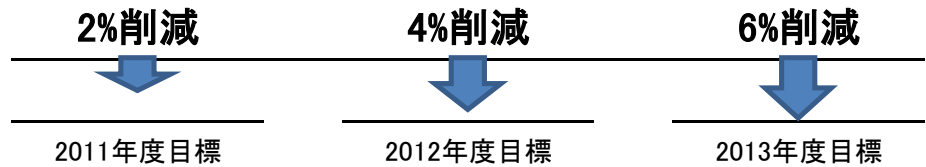


	役割・責任・権限
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> EA21に関する全ての責任と運用についての権限を持つ。 EA21の実施及び管理に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術を用意する。 環境管理責任者を任命する。 環境方針の設定・見直し及び従業員へ伝達を行なう。 代表者による全体の評価と見直しを実施する。
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> EA21を構築し、実施し、管理する。 環境経営システム・活動についての方針策定・評価と見直しの承認決定する。 環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの確認 環境目標達成状況のチェックと環境活動レポートの確認 問題点の是正・予防処置に対する指示と改善や見直しに必要な処置を行う。
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の事務局。 環境経営システム・活動についての方針策定の作成。 環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェック実施 環境活動実績集計と環境活動レポートの作成、公開 環境関連の外部コミュニケーションの窓口。
各部門長	<ul style="list-style-type: none"> 自部門におけるEA21に関連する環境目標及び環境活動計画の実施。 環境管理責任者の下で、全社員に対しての指示・指導・教育・訓練の実施。 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施。
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針・環境目標等の理解 環境活動計画に沿った環境負荷低減活動の実施及び緊急事態対応

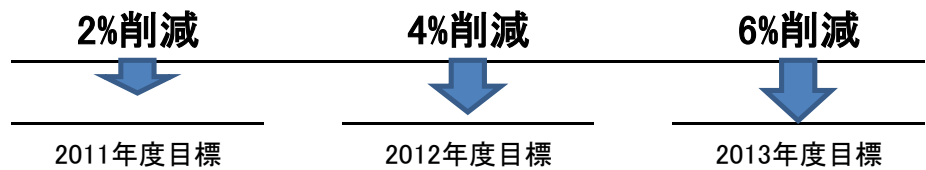
4. 環境目標

(1) 事業所

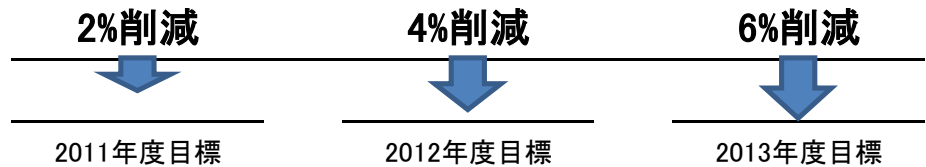
- ①電気・灯油の消費量の削減 … 電気使用量及び暖房機の燃料使用量を減らし、CO₂の排出量を削減
(2010年度比)
電気 39,218kwh
灯油 2,774ℓ



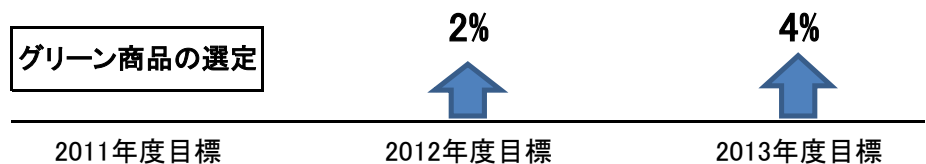
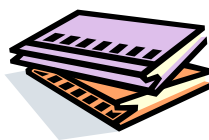
- ②廃棄物の排出、省資源化 … 分別を積極的に実施することによりリサイクルを推進し、廃棄物を削減
(2010年度比)
一般廃棄物 732kg



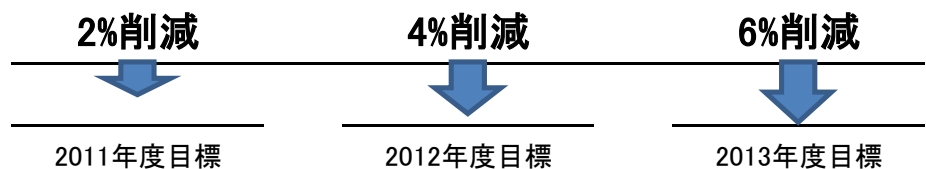
- ③水の消費 … 節水シールの貼付等で水の使用量を削減
(2010年度比)
水道 309ℓ



- ④グリーン購入の拡大 … さらにグリーン商品の選定を行い、購入量を拡大



- ⑤コピー用紙の削減 … 電子化を推進して、コピー用紙の使用を削減



(2) 現場

- ①ガソリン・軽油の消費量の削減 … エコドライブの実施、エンジン停止の徹底し、CO2排出量の削減を目指す。
(2010年度比)
ガソリン 20,502ℓ
軽油 63,961ℓ



- ②廃棄物の排出 … 分別を積極的に実施することによりリサイクルを推進し、廃棄物を削減
(2010年度比)



- ③ネプラス工法の推進 … ネプラス工法の推進により廃棄物の削減とCO2の排出量を削減
(2010年度比)
ネプラス 8件



5. 環境負荷の実績

項目	単位	2007年度	2008年度	2009年度
二酸化炭素排出量	kg-CO2/年	241,446	241,237	247,779
電力(事務所)	kwh/年	36,261	37,322	36,873
灯油(事務所)	ℓ/年	2,366	2,555	2,031
軽油・ガソリン(現場)	ℓ/年	83,248	83,085	85,246
廃棄物排出量		2,746	3,289	4,480
一般廃棄物(事務所)	kg/年	735	596	717
産業廃棄物(現場)	トン/年	2,011	2,693	3,763
総排水量(事務所)	m ³ /年	369	297	287
ネプラス工法の推進(現場)	件/年	—	—	3
事務用品グリーン購入(事業所)	(%)	50	60	60

注:事業年度=4月~3月

注:グリーン購入は購入費当たりのエコラベル商品購入費

注:二酸化炭素排出量を把握する際に用いた購入電力の排出係数は、国が公表する電気事業者毎の排出係数を用いて算定

※平成19年度の電気事業者別二酸化炭素排出係数: 中部電力 0.47(kg-CO2/kWh)

6. 環境目標とその実績

(1) 事業所の活動

項目	単位	2010年度		2011年度	2012年度
		年度目標	年度実績	目標	目標
二酸化炭素排出量	kg-CO2/年	242,823	247,588	242,636	237,684
電力	kwh/年	36,136	39,218	38,434	37,649
灯油	ℓ/年	1,990	2,774	2,718	2,663
一般廃棄物	kg/年	703	732	717	703
総排水量	m ³ /年	281	309	303	297
事務用品グリーン購入	(%)	60	60	60	62

注:二酸化炭素排出量は事業所及び建設現場等の合計で示す。

注:2010年度目標値は2009年度(実績)の2%を基準としている。

注:2011年度以降の目標値は2010年度(実績)の2%を基準としている。

(2) 建設現場等の活動

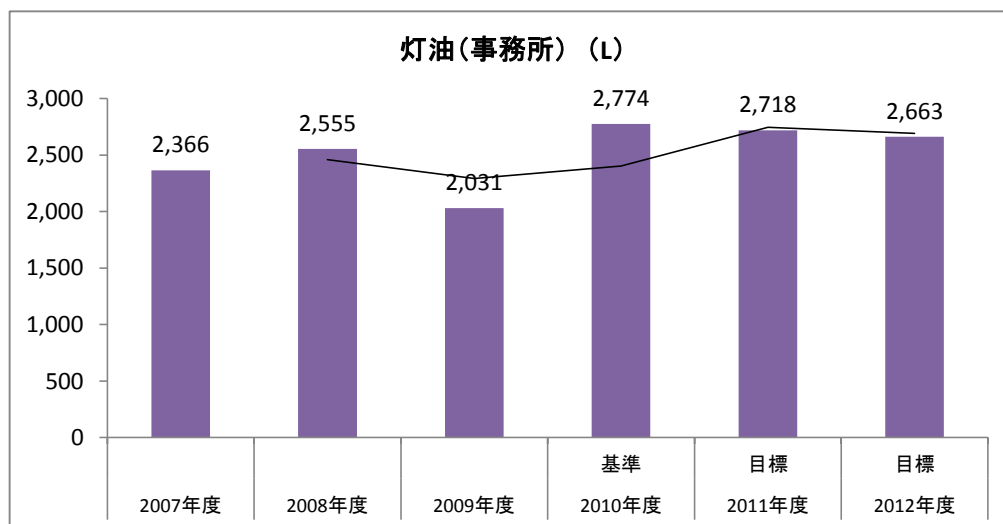
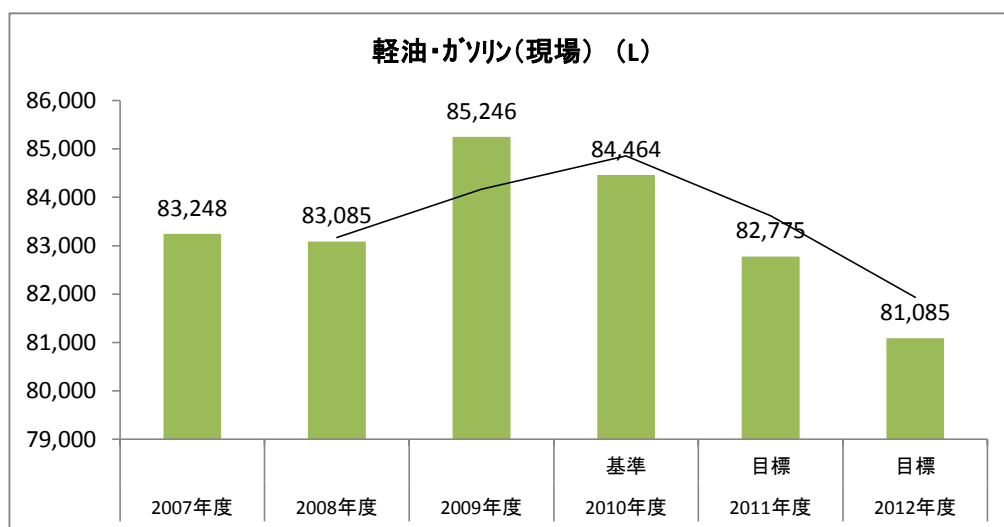
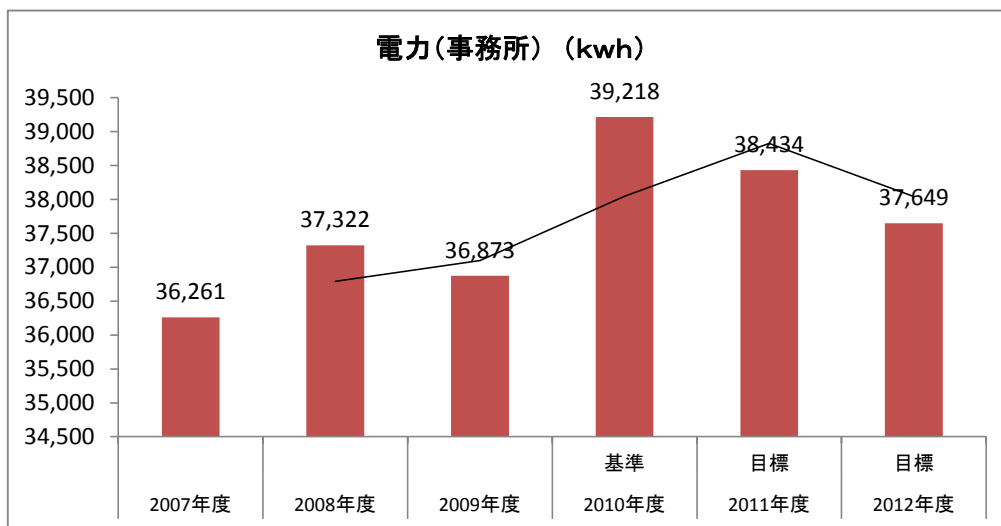
項目	単位	2010年度		2011年度	2012年度
		年度目標	年度実績	目標	目標
軽油・ガソリン	ℓ/年	83,541	84,464	82,775	81,085
産業廃棄物	トン/年	3,688	3,700	3,626	3,552
ネプラス工法の受注(現場)	件/年	5	8	10	12

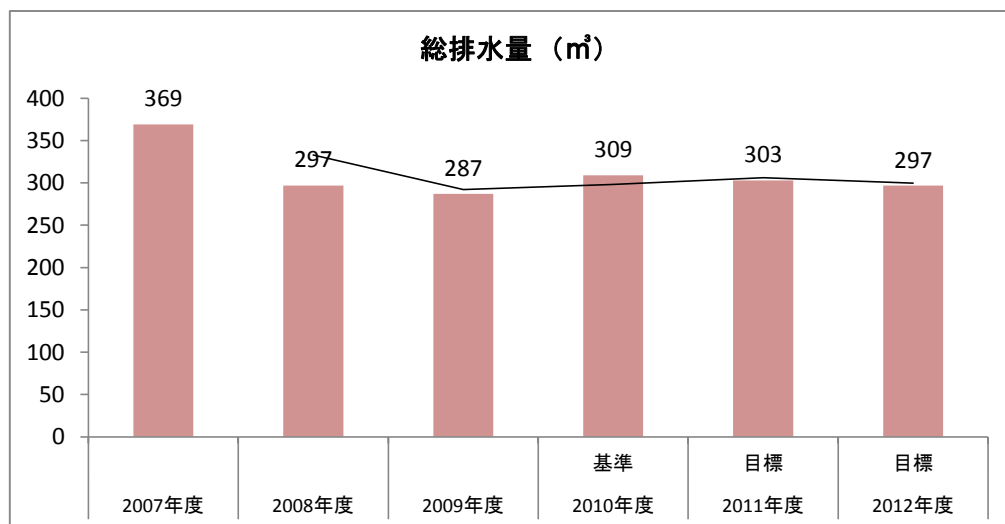
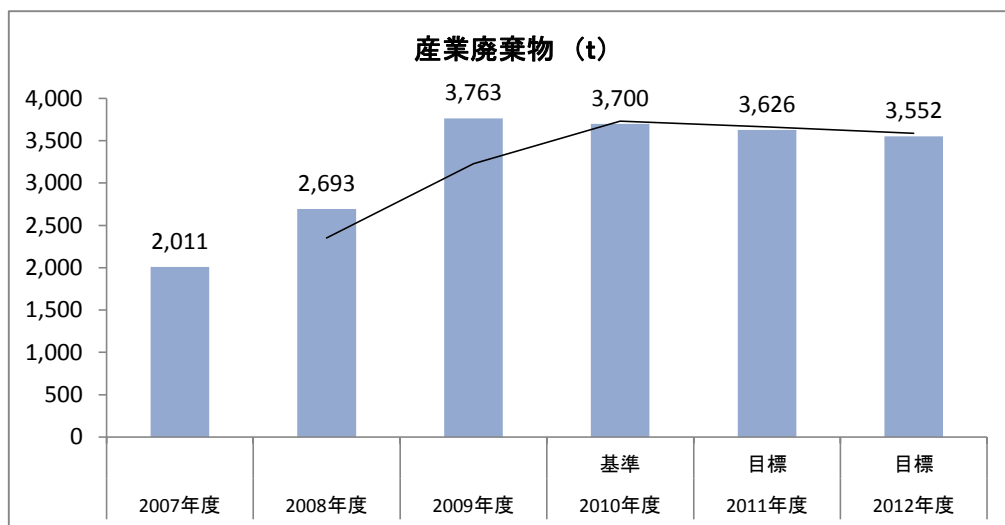
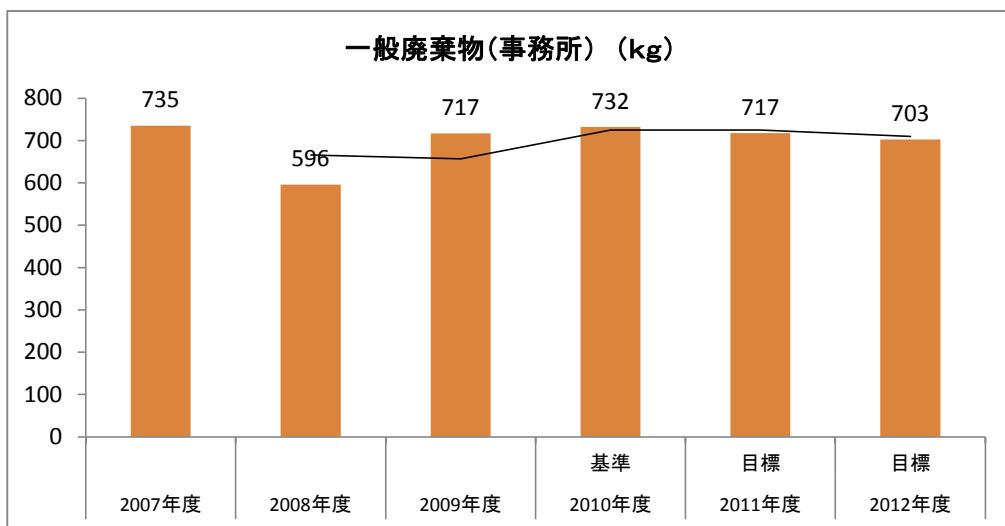
注:2010年度の産業廃棄物は未確定(集計中)の為、予想の使用量で示す。

注:2011年のグリーン購入は選定し、見直すため2010年と同じ値で示す。

注:2010年度目標値は2009年度(実績)の2%を基準としている。

注:2011年度以降の目標値は2010年度(実績)の2%を基準としている。





3. 指標毎の取りまとめ

① 温室効果ガス排出量（必須項目である二酸化炭素排出量のみ掲載）

22年(22年 4月 ~ 23年 3月)

		単位	消費量 (A)	排出量 (kg-CO ₂) (A×B) or (A×B×C)	割合	排出係数 (B)	単位発熱量 (C)		
二酸化炭素排出量	エネルギー消費	購入電力	kWh	39218	18432	7	0.470 (kg-CO ₂ /kWh)		
		建設現場の購入電力	kWh				0.455 (kg-CO ₂ /kWh)		
		化石燃料	灯油	L	2774	6912	3	0.0679 (kg-CO ₂ /MJ)	36.7 (MJ/l)
			建設現場の灯油	L				0.0679 (kg-CO ₂ /MJ)	36.7 (MJ/l)
			A重油	L	500	1355	1	0.0693 (kg-CO ₂ /MJ)	39.1 (MJ/l)
			都市ガス	Nm ³				0.0513 (kg-CO ₂ /MJ)	41.1 (MJ/Nm ³)
			LNG	kg				0.0494 (kg-CO ₂ /MJ)	54.5 (MJ/kg)
			LPG	kg	64	191	0	0.0598 (kg-CO ₂ /MJ)	50.2 (MJ/kg)
			建設現場のLPG	kg	1746	5242	2	0.0598 (kg-CO ₂ /MJ)	50.2 (MJ/kg)
			ガソリン	L				0.0671 (kg-CO ₂ /MJ)	34.6 (MJ/l)
			建設現場のガソリン	L	20503	47600	19	0.0671 (kg-CO ₂ /MJ)	34.6 (MJ/l)
			軽油	L				0.0687 (kg-CO ₂ /MJ)	38.2 (MJ/l)
		建設現場の軽油	L	63961	167856	68	0.0687 (kg-CO ₂ /MJ)	38.2 (MJ/l)	
		化石燃料 小計			229155	93			
	その他	熱供給(蒸気)	MJ				0.067 (kg-CO ₂ /MJ)		
		その他 小計							
	エネルギー消費 計				247588	100			
	産廃	廃油	t				2900 (kg-CO ₂ /t)		
		廃プラスチック	t				2600 (kg-CO ₂ /t)		
		廃棄物焼却処理 計							
	その他	その他 計							
		二酸化炭素排出量合計			247588	100			

(注) 購入電力の排出係数については、国が公表する電気事業者毎の排出係数を用いて算定してください。

※平成19年度の電気事業者別二酸化炭素排出係数： 中部電力 0.47(kg-CO₂/kWh)

○網掛けの項目は「環境への負荷の状況(取りまとめ表)」に記載された項目になっています。

○LPGの消費量を気体(m³)として把握している場合については「1m³=2.07kg」として換算してください。

○「産廃」については、自らが焼却または製品及び燃料として使用した場合に限ります。

○上記に該当しない項目で多量に投入しているエネルギーがある場合には「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアルver2.4」(環境省/経済産業省)を参照して排出量を算出してください。

○「メタン」「一酸化二窒素」「ハイドロフルオロカーボン類」「パーフルオロカーボン類」「六フッ化硫黄」については、「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアルver2.4」

(環境省/経済産業省)を参照し、各々の事業者にあった集計表を作成してください。

※温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル：<http://www.env.go.jp/earth/ghg-santeikohyo/manual/index.html>

② 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量

21年(21年 4月 ~ 22年 3月)

目	項	排出量(t)		最終処分量(t)	再資源化率(%)
		リサイクル	中間処理		
(事務所系ごみ)	コピー用紙(kg)		462	254	55
	段ボール(kg)		100	100	
	その他の紙(kg)				
	その他の可燃ごみ(kg)		120	120	0
	その他の不燃ごみ(kg)		50	50	
	管特別				
	一般廃棄物合計	0	732	524	
	コンクリート塊				

廃棄物排出量	産業廃棄物（建設副産物等）	As・Co塊						
		建設発生木材						
		建設汚泥						
		汚泥						
		廃プラスチック						
		金属くず						
		紙くず						
		繊維くず						
		建設混合廃棄物						
		廃油						
		木くず						
		特別管理	廃油					
			廃PCB等					
			廃石綿等					
		産業廃棄物合計		0	0	0	0	0

再資源化率（%）	
----------	--

項目	再使用量	ストック量	埋立等処理量	有効利用率
建設発生土（m ³ ）				

○網掛けの項目は「環境への負荷の状況（取りまとめ表）」に記載された項目になっています。

○表頭の排出量については、処理方法等の実状に合わせて括弧内に内訳を記入してください。

○表側の空欄には、排出される廃棄物の種類を記入してください。

○建設副産物のリサイクルについては、「建設廃棄物の3R、適正処理が地球を守ります」（財団法人産業廃棄物処理事業振興財団<http://www.sanpainet.or.jp/>）や、建設副産物リサイクル広報推進会議ホームページ<http://www.suishinkaigi.jp/index.html>等が参考となりますので活用してください。

③ 総排水量及び水使用量

③-1 総排水量

21年（21年4月～22年3月）

		単位	実績(m ³)	割合(%)	
総排水量 (m ³)	公共用水域	河川	m ³		
		湖沼	m ³		
		海域	m ³		
		各種水路	m ³		
		公共用水域計	m ³	0	
	下水道	m ³	309	100	
総排水量合計			309	100	

○網掛けの項目は「環境への負荷の状況（取りまとめ表）」に記載された項目になっています。

○再利用、処理等を行っていない雨水の排水については、対象外となります。

③-2 水使用量

21年（21年4月～22年3月）

		単位	実績(m ³)	割合(%)
水使用量 (m ³)	上水	m ³	309	100
	工業用水	m ³		
	地下水	m ³		
	海水、河川水	m ³		
	雨水	m ³		
水使用量合計		m ³	309	100

○網掛けの項目は「環境への負荷の状況（取りまとめ表）」に記載された項目になっています。

○製品の製造において原材料等として投入される水は、⑥物質使用量として把握してください。

○サイト内で循環的に利用している分は、ここに計上せず⑦サイト内で循環的に利用を行っている物質等として把握してください。

○建設現場等で循環的に利用している量は対象外となります。

④ 化学物質使用量

年(年 月 ~ 年 月)

化学物質の種類		単位	実績	備考(保管量等)
化学物質使用量	対象建材等の種類	kg		
	上記に含まれる化学物質	kg		
	対象建材等の種類	kg		
	上記に含まれる化学物質	kg		
	対象建材等の種類	kg		
	上記に含まれる化学物質	kg		

- 網掛けの項目は「環境への負荷の状況(取りまとめ表)」に記載された項目になっています。
- 工事の施工及び製造等の工程で化学物質を含む製品を扱う事業者においては、製品に含まれる化学物質の使用量を把握します。主な化学物質を含む製品としては、接着剤、防水材、塗料等です。
- 使用量は、年間購入量から期末の保管量を差し引いた量が使用量となりますが、把握が難しい場合は購入量でもかまいません。把握が可能な場合は、備考欄に保管量を記載してください。
- 把握する化学物質は、原則としてPRTR制度対象物質とします。
- 上段に使用した製品名を記入し、下段にその製品に含まれる化学物質名と量情報を記入してください。
- 対象となる化学物質使用量の把握方法は、化学物質を含む製品について、容器に記載された成分表をもとに対象となる化学物質の製品中に含まれる量を把握します。成分表が記載されていないまたは情報が不十分な場合は、製造元や卸売業者、小売業者にMSDS*を請求し、それをもとに製品中の化学物質含有量を把握します。把握した化学物質含有量に製品の年間使用化学物質の年間使用量が算出できます。

<記入例>

化学物質の種類		単位	実績	備考(保管)
化学物質使用量	対象建材等の種類	kg	*****	*****
	エポキシ樹脂系〇〇接着剤	kg	*****	
	上記に含まれる化学物質	kg	*****	
	ビスフェノールA型エポキシ	kg	*****	
	対象建材等の種類	kg	*****	*****
	アスファルト〇〇防水材	kg	*****	
上記に含まれる化学物質	kg	*****		
キシレン	kg	*****		

⑤ エネルギー使用量 (MJ)

21年(21年 4月 ~ 22年 3月)

		単位	使用量・消費量 (A)	エネルギー量(MJ) (A×B)	割合 (%)	単位発熱量 (B)	
エネルギー使用量	購入電力(新エネルギー除く)	kWh	39218.0	385512.9	10.3	9.83 (MJ/kWh)	
	建設現場の購入電力(同じ)	kWh		0.0		9.83 (MJ/kWh)	
	化石燃料	灯油	L	2773.6	101791.1	2.7	36.7 (MJ/l)
		建設現場の灯油	L				36.7 (MJ/l)
		A重油	L	500.0	19550.0	0.5	39.1 (MJ/l)
		都市ガス	Nm ³				41.1 (MJ/Nm ³)
		液化天然ガス(LNG)	kg				54.5 (MJ/kg)
		液化石油ガス(LPG)	kg	63.6	3190.2	0.1	50.2 (MJ/kg)
		建設現場の(LPG)	kg	1746.1	87654.2	2.3	50.2 (MJ/kg)
		ガソリン	L				34.6 (MJ/l)
		建設現場のガソリン	L	20502.7	709394.5	18.9	34.6 (MJ/l)
		軽油	L				38.2 (MJ/l)
		建設現場の軽油	L	63961.2	*****	65.1	38.2 (MJ/l)
	化石燃料 計	MJ		*****	89.7		
	新工	太陽光	kWh				3.6 (MJ/kWh)
		太陽熱	kWh				3.6 (MJ/kWh)
		風力	kWh				3.6 (MJ/kWh)

エネルギー	水力	kWh			3.6 (MJ/kWh)
	燃料電池	kWh			3.6 (MJ/kWh)
	廃棄物	kWh			3.6 (MJ/kWh)
	新エネルギー計	MJ		0.0	
その他	熱供給(蒸気)	MJ			
	その他計	MJ		0.0	
エネルギー使用量合計		MJ		#####	100.0

- 網掛けの項目は「環境への負荷の状況(取りまとめ表)」に記載された項目になっています。
- エネルギー量は、燃料使用量・消費量に単位発熱量を乗じて(燃料使用量・消費量×単位発熱量)求めてください。
- 上記に該当しない項目で多量に投入しているエネルギーがある場合には、単位発熱量を調べて、空欄を設けて記入してください。
- LPGの消費量を気体(m³)として把握している場合については1m³=2.07kgとして換算してください。
- 製品の製造において原材料等として投入される石油等は、⑥物質使用量として把握してください。

⑥ 物質使用量

21年(21年4月～22年3月)

		実績(t)	割合(%)	
物質使用量(t)	資源の種類	生コン	2557.6	6.3
		アスファルトコンクリート	12667.4	31.3
		砕石	25170.4	62.3
		乳剤	38.9	0.1
		資源使用量計	40434.3	
	循環資源			
		循環資源使用量計	0	
その他				
物質使用量合計		40434.3		

- 例:資材(資源)の種類(循環資源も同様)
- ・生コンクリート
 - ・アスファルトコンクリート
 - ・砕石
 - ・砂
 - ・土砂
 - ・木材
 - ・鋼材(鋼材二次製品含む)
 - ・乳剤
 - ・塗料
 - ・接着剤
 - ・紙(用紙も含まれる)
 - など
- その他
- ・重量で把握可能な、製品、コンクリート二次製品、半製品、商品など

- 網掛けの項目は「環境への負荷の状況(取りまとめ表)」に記載された項目になっています。
- まずは主要な物質から把握してください。物質使用量は、重量(単位はt)で把握してください。
- 製品の製造において原材料等として使用される水や石油等は、物質使用量として把握してください。
- 事業者内部で循環的に利用(再使用、再生利用、熱回収)している物質は対象外となります。

⑦ 総製品生産量または総商品販売量

※設備工事業など商品販売を伴う場合やプラントや工場の場合に把握します

年(年 月 ~ 年 月)

		製品等名	単位	実績
総製品生産量	製品または商品		t	
			t	
			t	
			t	
			t	
		製品または商品重量合計	t	0

または総商品販売量（t）		重量以外				
		環境負荷低減に資する製品または商品	重量		t	
			重量		t	
	重量			t		
	環境負荷低減に資する製品または商品重量合計		t	0		
	重量以外					

○生産量または販売量のいずれかを把握してください。

○網掛けの項目は「環境への負荷の状況（取りまとめ表）」に記載された項目になっています。

○総製品生産量または総商品販売量のいずれかを把握してください。

※H21二酸化炭素排出係数を使用
※消費電力が少ない為、該当しない

再資源 ←まーくんのごみ箱(重要書類以外)
家庭ごみ ←市のごみ分別・処分

委託(単純焼却)
家庭ごみ ←市のごみ分別・処分

7. 環境活動計画の内容と取組結果の評価

取組項目		活動計画の内容	取組結果		評価と今後の課題
			(2010年12月～2011年3月)		
二酸化炭素排出量削減	電力使用量削減 (事務所) 単位: kwh	・エアコンの温度設定 事務所: 冷房 25℃、暖房 22℃ ・エアコン、照明器具の定期清掃 ・昼休み時の消灯(1時間)	実績 12,783	目標 12,582	未達成 △ 日々のチェック活動と活動計画に沿ったチェックを継続し、不達成だった場合は、定期的に目標・活動の見直しをする。
	軽油・ガソリン使用量削減 (現場) 単位: ℓ	・エコドライブの実施 ・不使用時のエンジン停止の徹底 ・低燃費車優先使用	実績 32,067	目標 31,894	未達成 △ 取組期間中、大震災の影響もあり、使用量が増加したが、4月以降も継続実施していく。
	灯油使用量削減 (事務所) 単位: ℓ	・暖房温度管理 (冬期21℃+2℃以下) ・灯油暖房機の使用時期管理 ・不使用時の電源オフ	実績 2,180	目標 1,615	未達成 × 取組期間中、大震災の影響もあり、使用量が増加したが、4月以降も継続実施していく。 ・灯油の注文管理
廃棄物排出量削減	一般廃棄物排出量削減 単位: kg	・両面コピー、裏紙使用、コピー枚数削減 ・社内文書の電子化 ・ごみの分別とリサイクルを推進	実績 717	目標 596	未達成 (※2009年度の達成率) コピー用紙の削減、ごみの分別がまだ徹底されていない。日々のチェック活動と継続実施をしていく。 ・ごみの分別を徹底
	産業廃棄物排出量削減 単位: t	・3R活動に努め、資材置き場での資材の定位置・定量化を推進 ・マニフェストに基づく適正処理	実績 3,764	目標 2,694	未達成 (※2009年度の達成率) ・引き続き3R活動 ・マニフェストによる適正管理 ・工事内容により削減不可能も多く、リサイクル化可能な処分等を検討したい。
総排水量削減 単位: m ³		・使用量の見直し ・まとめ洗いをし使用量を減らす	実績 92	目標 89	未達成 △ ・節水シールの貼付 ・使用量の把握を行う
ネプラス工法の推進 単位: 件		・パンフレット等の整備と営業担当の教育 ・受注現場でのネプラス工法の提案	実績 3	目標 2	目標達成 (※2009年度の達成率) ・現在の活動を継続
事務用品のグリーン購入の推進 単位: %		・エコマーク商品の調査 ・エコマーク商品の優先購入(手順書化)	実績 60%	目標 60%	目標達成 ○ ・新たなエコ商品の選定

注 目標値は前年度(2009年12月～2010年3月)の2%を基準としている。



事務所
ごみの分別



コピー用紙(裏紙使用)



紙ごみリサイクルBOX

置場
ごみの分別



8. 次年度の取組内容

取組項目		具体的取組内容	担当部署
二酸化炭素排出量	電力使用量の削減	エアコン温度管理(冷房)26℃、(暖房)22℃	総務部
		節電シールの貼付	
		不在時はパソコンの電源を切る	
		二重窓の設置による断熱性を向上	
		エアコン、照明器具の定期清掃	
		昼休み時の消灯(1時間)	
	軽油・ガソリン使用量の削減	車両・重機の適正運転(エコドライブ推進)	工事部
		現場に見合った重機の選定	
		不必要品の積載禁止	
		不使用時のエンジン停止の徹底	
		低燃費車優先使用	
	灯油使用量の削減	暖房温度管理(冬期21℃+2℃以下)	工事部
灯油暖房機の使用時期を管理			
不使用時の電源オフ			
廃棄物排出量	一般廃棄物排出量の削減	可燃ごみの計測管理	総務部
		コピー用紙の両面、裏紙の使用	
		書類の電子化を進め、ペーパーレスを心がける	
		ごみの分別とリサイクルを推進	
	産業廃棄物排出量の削減	マニフェストの適正管理	工事部
		分別排出・選別の徹底	
		リサイクル化可能な処分への取組	
水道使用量	節水シールの貼付	総務部	
	井戸水計量メーター取付		
	点検を定期的に行う		
ネプラス工法の推進	受注、現場でのネプラス工法の提案	工事部	
	パンフレットを活用		
	営業担当の教育		
グリーン購入の推進	新たなエコ商品の選定	総務部	
	使用済みインクカートリッジを業者に渡す		

9. 代表者による全体の評価と見直し

株式会社アスペック(ASPEC)のEは、今後の取り組みが重要視される環境(environment)の頭文字のEであり、これからの地球環境の保全に向けた会社全体での環境に対する取り組みの志を表しています。

事業を継続する上で環境保全に対する配慮は年々重要視されておりますが、エコアクション21に取り組む事で、社員一人ひとりの意識が高まり、会社全体の環境保全意識のレベルアップに繋がると考えています。

今回の実施により二酸化炭素排出量・廃棄物排出量・総排水量等、それぞれの実績を確認する事が出来ましたし、4ヶ月間の取り組みにおいても達成・未達とありますが、数字に対する社員全員の意識付けが出来た事が大きな成果でありました。また、環境事務局作成の環境活動レポートは、経年環境負荷及びそれぞれの削減目標等を数字・グラフ・オブジェクト等で明確に表示しており、今後の取り組みがし易く仕上がっています。

電力使用量は消灯の徹底、不在時のパソコン等の電源を切る、節電シールによる啓蒙の実施等をしましたが未達成という結果になりました。また、軽油の使用量ではアイドリング停止、そして安全運転へも繋がるエコドライブの推進を周知をしましたが、除雪作業等が多かった為、目標を達成することができませんでした。

一般廃棄物排出量の削減未達は、事務業務が集中する年度末に起因したものと考えますが、今後分別徹底、電子化を推進する事で解決が図られることでしょう。また、産業廃棄物排出量は業務の中心であり、工事量に左右される部分が大きく一概に削減とはならない場合もあるかと思いますが、適正管理、適正処理を念頭に取り組みます。

現在はまだまだ取り組みが浅く、全社員に深く浸透している状況ではありませんが、次世代を担う企業として、教育・訓練を継続し、環境経営を柱とする優良企業に成長するためにも、この環境活動システムを大いに活用して環境理念、環境方針を継続維持する事が重要との認識でいます。

平成 23年 5月 20日

株式会社アスペック

代表取締役 楠 茂夫

10. 環境関連法規制の遵守状況

(1) 当社に適用される法規制と現在までの遵守状況

法規制の名称	該当する活動	遵守状況
廃棄物処理法	産業廃棄物の保管、処分の委託、マニフェスト票の管理	遵守
	・産業廃棄物収集運搬業許可証 (平成20年10月12日 更新許可)	
	一般廃棄物の収集・運搬、処理は市町村が行うごみ出しのルールに従う	
騒音規制法・振動規制法	指定地域における建設作業と届出	遵守
建設リサイクル法	対象工事における届出書面作成	遵守
道路交通法	道路における対象工事・作業の許可申請	遵守
道路法	継続して道路を使用する対象物件の許可申請	遵守
道路運送車両法	使用者は、日常的に点検すべき事項について、自動車を点検する	遵守

(2) 違反、訴訟等

環境関連法規の遵守状況は、3月に環境管理責任者を中心として確認し調べた結果、環境法規への違反はありません。
また、関係機関からの指摘、違反、訴訟等はありませんでした。